

第4回浜田市協働のまちづくり推進に関する条例検討委員会 会議録概要

日 時 令和2年1月22日（水）18：30～20：30

場 所 市役所4階 講堂

【出席】 条例検討委員会委員 19名

執行部職員 11名

(1) 第3回検討委員会の振返りについて

第3回検討委員会で行ったグループワーク「条例に盛り込みたいこと」で出された意見の振返りを行った。

また、第3回（前文・目的・理念）、第4回（定義・関わる団体と役割）のグループワークで出された意見に基づき事務局で条例のイメージを作成、委員に送付し、委員において所属団体等で意見集約を行い、次回検討委員会で報告することとした。

(2) グループワーク（テーマ：協働のまちづくりを進めるため、浜田市の強みとなる多種多様な団体とその団体に期待する役割）

3つのグループに分かれ、テーマに沿ってグループワークと発表を行った。

（Aグループ）

- ・浜田市の強みにこだわらず、「教育・文化・人づくり・子育て」「地域・福祉」「観光・交流」「安全・安心」「生産団体・企業」の役割を担う団体と連携し取り組めたらという意見となった。
- ・「地域・福祉」の役割を担う社会福祉協議会、自治会、女性の会、高齢者クラブ、若者グループは、実際にまちづくりの事業を運営していく上で外せない団体となっている。
- ・「安全・安心」の役割を担う消防団、自主防災組織、郵便局、駐在所などと連携していく。
- ・「生産団体・企業」においては、中山間地域で今後まちづくり事業を行っていく上で、農協、森林組合、建設業協会などと連携していく必要がある。
- ・「教育・文化・人づくり・子育て」において、人口減少が更に進む中で子供を育てていくことは重要であることから、公民館、小中学校、校長会などとの連携が必要である。文化においては、伝えていくことが使命であり、文化協会や「観光・交流」分野の神楽社中、観光協会とも連携していく。
- ・それぞれの団体を分けるのではなく、全てが連携し合うという意見であった。

（Bグループ）

- ・まちづくりに関わる団体を書き出し、「生産活動・振興」「子ども・健全育成」「文化・芸能」「安全・安心」「地域づくり・まちづくり」に分類した。

- ・その中で浜田市の強みとなる団体としては、和紙協同組合・水産高校・県立大学・神楽社中があるが、現在まちづくりと直接関わっていないものもある。こういった所と今後どう関わっていくか、1つの視点として必要である。
- ・まちづくり推進委員会、自治会は、地域において重要な役割があり、この中にいろんな団体が入ってくるのが本当のところであり、地域の中に欠かせない存在だという認識であった。
- ・それぞれの役割については、「生産活動・振興」は、地域の可能性を広げていくという役割、「子ども・健全育成」は、夢や誇りを養うこと、「文化・芸能」が進めて行くのは、伝承ということが大切である。「安心・安全」は、地域の中の見守り、支え合いを進めて行く役割がある。

(Cグループ)

- ・Aグループ、Bグループで入ってこなかったものについて発表する。
- ・新規の起業家を取り入れて行くことや小さな市民団体をまちづくり団体の中に考えていく。楽しく生き生きと行っている活動を広げたり、継続させる支援をしていくことが出来れば、関わる団体として大事になると感じる。
- ・役割や関わる理由として、「安心・安全」が土台にあれば、大人も子供の楽しく活動できる。楽しみや希望を作ることが大事である。それらを踏まえた人づくりがあり、その中でもリーダー的な役割とそのリーダーを支える仲間、これらの人づくりが重要ではないかと考える。それらを含んで一番大事なものが、心の豊かさ・経済の豊かさ・人のつながりの豊かさ・個人から共生までがすべて入って仲良く作っていける豊かさ。そういう役割を持つまちづくりになっていけばという意見となった。

【塚本委員】浜田の強みということでは、他の県では真似のできない強みを持っていながら、話が一つも出てこなかった。のどぐろで有名な浜田でこの組織の中に漁業者の代表者がいないのが非常に残念である。農業者は多いが、漁業の話が一つも出ない。JFの付箋が1枚出ただけであった。

立派な港と海があるのだから、漁業で巻き返しを起こして強い浜田という意見が出なかったのが残念である。

また、輝かしい浜田の活力を作って巻き返しを図るまちづくりをしようとしている中で、防御の話しか出ない。高齢者が多いことや安全安心パトロールが必要であるなど、安心して暮らしたいという話ばかりになる。住民主体のまちづくりとなるとそうになってしまう。これは当然のことであると思うが、もっと行政の力を発揮していただき、大きな企業を誘致して、大学生が故郷に帰らず浜田で就職する職場づくりにもっと力を入れるような話がでないのか。輝かしい浜田というには少しばかり遠いという気がした。

【植田委員】先ほどのグループワークの際、スポーツ、レジャーという話があり、

海があるのに海が生かせていないという意見があった。海をテーマにサーフィンやマリンスポーツなどもっと生かせるのではないか。千畳苑は砂がついたまま入れないので、シャワールームがあれば良いのではという意見も出た。浜田の海をもっと生かすことも浜田の強みとなるという意見が出ている。

【大橋委員】今、持続可能性ということをよく言われており、社会の持続可能性や企業の持続可能性、自然環境の持続可能性などあるが、自然環境の持続可能性というものが抜けているのではと思う。火力発電所が三隅にあり、どうしても風力と火力と対比されてしまう。環境というところが抜けているように思った。

【長畑会長】自然エネルギーや再生可能エネルギーのことを言っておられるか。

【大橋委員】それも含め、火力発電所も含めた自然環境の持続可能性についてである。局所的な雨が降れば浜田市全体がなくなってしまうような状況に陥る可能性もある。川の氾濫で市が潰れてしまうようなこともあるのでこちらも重要なのではないか。

(総 評)

【長畑会長】地域づくりには、上手いところと下手なところがある。鳥取はやり方が上手いと感じる。出雲市ではイチゴのPRを上手く行っている。金城にもベリーネがあるがそこまで行っていない。浜田にも良いもの、強みがあるが生かし切れていない。教育や文化、安全安心が出てきたが、これからは人口減少・超高齢化は避けられない。それをどうやって克服していくのかとなると、やはり浜田市の強みを生かすということであり、今日皆さんに出していただいた意見が重要になると思う。

他にないものをどうやっていくかについては、起業家の育成、人づくり、関係人口・交流人口をどう作っていくかである。これからは人の交流をいかに増やしていくか、経済を循環していく視点が重要になってくる。

浜田市の強みである自然を生かす、文化を生かす、神楽社中も出てきたが、こういった強みを生かす。このまちづくり条例をきっかけに、一つの大きな浜田市の強みとして打ち出していく仕掛け・仕組みを作る必要がある。

浜田には県立大学、図書館、美術館もあり、これだけの施設が整っている市はあまりなく、こういった強みを生かして浜田市の持続可能性をどうやって作っていくかの仕掛け・仕組み作りに生かしていくのが、条例づくりの肝になっていくと今日の発表を聞いて感じた。

そういった点で大きな役割を果たさなくてはならないのが、地域のネットワークである。今日いろんな団体が出てきた。その中の県立大学と商工会議所は連携をとっているが、地域とのネットワークがない。県立大学が持っている支援は非常に大きな役割を果たすことが出来ると思っている。令和3年4月から新しい学部ができるが、地域の団体と市民が

ネットワークを作ってまちづくりに取り組んでいく仕掛けができるかと非常に大きな前進が図れるのではないかと。文化・観光・交流という点でも、安全安心という点でも大きな取組が出来るのではないかとという可能性が浜田市にはあると思う。こういうことを条例に盛り込んでいけたらと感じるグループワークであった。

(4) その他（今後のスケジュールについて）

- ・第3回、第4回でいただいた意見をまとめて、条例に近い形で2月中旬ごろに送付する。所属団体や地域との意見交換の資料として活用いただき、第5回検討委員会で意見を持ち寄り、意見交換いただく
- ・2月11日開催の「協働のまちづくりフォーラム」におけるパネリストは、検討委員会に参加いただいている団体の中から依頼させていただく。

・第5回検討委員会

日時 3月23日（月）18：30～20：30

場所 浜田市役所4階講堂

- 内容
- ・部会の状況報告
 - ・第4回の振返り
 - ・意見交換

（三浦委員）三隅自治区でまちづくり会議を開催した。その際に検討委員会の情報が何もなく、会議が分裂状態となった。説明が地域になく地域住民が阻害されているように感じる。今日のようなワーキングというのは、そういったところで皆さんに関わってもらえるように検討いただき、出た意見について、検討委員会のメンバーでたたき上げて作っていくという順序があるのではと思う。今後また三隅で防災自治課を中心に会議を開くが、うまくいくか不安である。こういったことについて、会長、事務局のお考えを伺いたい。

（長畑会長）検討委員会の活動内容を市民に知っていただくことは重要であり、行政側の取組がもっと必要であると感じる。出前講座という形で地域の要望に応え、検討委員会の活動内容の説明を進めて行くことも重要であり、事務局の方で検討いただきたい。私も説明に出向く。